

## 2017年度岡山ネットワーク番組審議会議事録

・日時 2018年3月23日(金) 午前11時～午後1時

・会場 岡山シティホテル厚生町(岡山市北区厚生町)

・出席者

<番組審議会> ※五十音順

石井 浩二委員(岡山県商工会青年部連合会会長)

海野 節子委員(岡山市御津地区婦人会副会長)

清水 修委員(岡山広告協会事務局長)

長門 修二委員(足守学区連合町内会長)

羽田 浩委員(岡山経済同友会事務局長)

平田 慎一委員(岡山北商工会青年部部长)

松本記代子委員(瀬戸町観光文化協会幹事)

峰松 妙委員(岡山市社会教育委員)

<Oni ビジョン>

石井正人(代表取締役社長) 平松一泰(専務取締役) 富長一郎(統括本部長)

吉井健二(放送部副部長) 佐佐木真紀子(放送部課長)

午前11時に開会し、石井社長が「新聞や地上波以上にエリア内の情報をできるだけ細かく報道するよう取り組んでおり、地域に寄り添った番組制作を心がけている。きょうは忌憚ない意見をいただき、これからの番組制作に役立てたい」とあいさつ。吉井副部長が▽夏の高校野球の生中継▽うらじゃ、西大寺会陽などの大型中継—など年間の取り組みを説明した。委員にはあらかじめ▽Oni ビジョンわいど▽高校野球▽西大寺会陽▽松林寺子ども会陽▽オペレッタ上演—などの一部を収録したDVDを見てもらい、提言を求めた。

出席者から出た意見は以下の通り。

「松林寺子ども会陽や西大寺会陽は後世に残すべき大切な文化財であり、それを放送することは<地域とともに>というスタンスがよく伝わる取り組みだ。一方、ライトダウンイベントの番組は照明を消したところで終わっていたが、照明を消すことがどんな意味を持つのか視聴者の思いが発展するような終わり方がよかった。今後は松林寺会陽にしても準備や片づけを報じるだけでなく、それによって生まれる地域のつながりのようなものを掘り下げてほしいと思う」

「ライトダウンイベントやオペレッタでは子どもたちが活躍しており、頼もしく思ったし、そうした取り組みをニュースで伝えるのはいいことだと思う。高校生や専門学校生の取り組みにも光を当てていたが、若者がチャレンジする姿は魅力的だ。岡山ならで

はこの地域性を掘り起こして地域に知らせるコミュニティーチャンネルの取り組みは素晴らしい」

「コミュニティーチャンネルに登場すると〈フィードバックが多い〉感じがする。どうということかという、テレビに取り上げられた取り組みについて見知らぬ人も含めて多くの人々から感想が寄せられ、これがとても役立つからだ。ただ『Oni ビジョンわいど』のラインナップの掲出時間が短いなど改善点はあるのでこれからも工夫してほしい」

「バーチャルスタジオを使って番組を柔らかくつくっている一方で、ニュースはきちり取り組んでいる印象だ。高校野球関連の番組に注目しているが、マネジャーを取り上げるなど民放ではできない手法がいい。日々のことでは編成にひと工夫必要だ。視聴者をぐっと引き込むような編成を工夫してほしい」

「高齢化率の高いエリアに住んでいるが、コミュニティーチャンネルはよく見られている。とくに市議会中継や郷土芸能関連は人気が高い。今後、高齢化で地域に生じる現象を取り上げたり、高齢者を意識した番組を作ってみてはどうか」

「西大寺会陽の生中継などは長時間の枠が確保できない地上波局では難しい取り組みだ。半面、長時間の番組で間が持たないくらいがあるので工夫も必要だ。高校野球のチーム紹介は、生き生きとした生徒の表情をとらえていて光った。個性を引き出す取材をしているのだろうと思う。ただ、野球だけがスポーツではないので他の競技も取り上げてほしい。番組内容に厚みが出ると思う」

「地域にはいろんな団体があり、それぞれさまざまな取り組みをしている。そうした小さな地域団体の悩みは情報の発信力不足だ。Oni ビジョンのニュースはそうした悩みを解決してくれる存在として感謝している。これからもそうしたニーズに応えてほしい。地域のわれわれも Oni ビジョンと意見交換し、そうしたニーズを伝え続けたい」

「番組を見てその地域に出かけることもよくある。これからも地域の小さな祭りやイベントを放送してほしい。岡山は自然、景色、歴史、文化、食事などいい資源を秘めているが、PR べただ。岡山市の PR をもっとしてほしい」